

# 蔵王・小阿寺沢・丸山沢

丁野

- ◆日程：2025年8月30日-31日
- ◆メンバー：4名（丁野・K林・I崎・M本）
- ◆形態：沢登り
- ◆ルート：  
8/30 小阿寺沢  
8/31 丸山沢

昨年、中退した丸山沢がまるで、のどに引っかかった小骨のように気になっていた。近いうちに再来したいと思っていたが、今回、カンちゃんがエントリーしてくれたので計画することができた。メンバーも登れるメンバーで4名、多すぎると時間がかかるし、少なすぎるとクマが怖い。この4名という人数は多すぎず少なすぎず理想的な人数である。天気は予報では両日ともまずまずというか悩ましい。というのも土曜日は晴れだが風が強く天クラはC、日曜日は午後から雨で曇りベースだが天クラはAからB。さて、どうするか？

悩んだ結果、行けるなら土曜日にメインの丸山沢に行くことにして、涼しい場所で仮眠したかったので、前夜は、エコーラインの滝見台の駐車スペースに車を停めて仮眠した。風は強いが満天の星空に、明日への期待が膨らむ。

明けて4時に起床。相変わらず風が強いのが気になるが、とりあえず賽の磧駐車場まで行く。だが、車を降りるとそこはもう爆風！！稜線も雲に隠れ、とても快適に遡行できる天気ではない。明日、どうなるかは神のみぞ知るだが、少なくとも今日は登るべきではない、と判断して、標高の低い小阿寺沢に転進を決める。

## 8/30 小阿寺沢

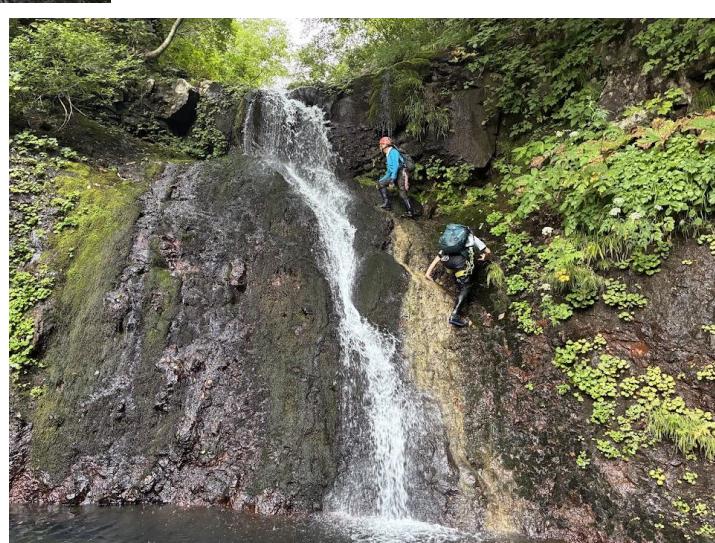


■写真左 前鳥帽子岳登山口から出発。

■写真右 最初に現れる10mクラスの滝。傾斜が緩いので好きなところを各々登る。

前鳥帽子岳の登山口に車を停めて7:00に出発。少し登山道を辿ると登山道は小阿寺沢を渡るのでここで入渓する。東北の沢らしいナメがすぐに現れ好ましい渓相である。早速、10m位の美しい滝が現れる。傾斜が緩いのでどこでも登れるので皆、好きなところを登る。するとナメが続き、すぐにさっきの滝を小ぶりにしたような滝が現れここも好きに登る。ここからは延々と美しいナメが続く！！キレイな沢である。20分近くナメを辿ると倒木のある小滝、左を難無く登る。そして再びナメ！！そして25分位で10m位の滝。ここは右壁を登る。さらに

ナメは続くよどこまでも・・・。次に現れるのは傾斜の強い6~7mの滝。ここは右壁を登って上部でシャワーを浴びて流れを横断して最後は左壁を登る。初級者がいるならロープがあつた方が良さそうだ。すぐに現れる階段状の滝を登ると、ほぼ楽しいところは終わる。やがて、水でも引いているのかホースが何本もある場所があり、ここで脱渓する。



- 写真上左 2つ目の滝。楽しく登れる！！
- 写真上右 ナメが延々と続き気持ちがいい！！
- 写真中左 ナメは続くよ♪ どこまでも・・・。
- 写真中右 倒木のある滝も問題なく登る。

- 写真下左 遠目には難しそうだが近づいてみると快適に登れる10mクラスの滝。
- 写真下右 傾斜の強い滝。左から登り、上部でシャワーを浴びて右壁に移って登る。



以前に訪れた時は、さらに沢を遡行して、涸滝が連続する詰めを登ったが、今回は明日に備えて軽めの調整ということで、ここで遡行終了とした。辺りはどこも藪でどこに脱渓ルートがあるのかが良くわからず、しばらく右往左往するが、ここはホースに沿って忠実に歩くのが正規ルートだということが分かる。最初は藪でわかりにくいがホースに沿って歩いていくと、やがてはっきりした踏み跡になり、さらに辿ればゲレンデに出る。ここから駐車場まで約1時間10分。登山道には日本の県や宮城県の市・町のしりとりクイズの標識があちこちにあり、退屈しないで歩くことができた。I崎さんの地理力半端ない。M本さんも仙台に住んでいたことがあるから宮城県の市や町には詳しい。考えながら歩いていたらあっという間に駐車場に着いてしまった。まだ昼前なので、そこら辺にテントを張るわけにもいかず、キャンプ場を探すことになる。その前にまずは風呂だ風呂！！

■写真左 最後の階段状の滝を登る。

■写真右 下山途中にある樹齢約600年の見事な杉！！

遠刈田温泉の「まほろばの湯」（¥800）少し高いが露天風呂もあって快適。キャンプ場も遠刈田温泉近くにある「WILD・ZAO・CAMP」というキャンプ場に目をつけて訪れるが、ここは何と1張/¥1000、4人だと¥250/1人の激安キャンプ場だった。キャンプするのは我々のみ、トイレは住みたくなるくらいにキレイで良いところを見つけることができた。昼食は隣接するレストランでスープカレーを食べてお腹も満足。テント張って、ロープも張って濡れ物干せば、あとはお酒を飲んでリラックスタイム！！とはいっても、寝不足と運動疲れで僕は半分くらい寝ていた。でも、それがまた心地よい。M本さんが用意してくれた晩御飯のマーボナスも夢うつつで食べて気がつくとすでに20時半、空は暗くなり寝る時間だった。明日の起床は3時半！！

おやすみなさい！！

■コースタイム

前鳥帽子岳登山道駐車場 (7:00) ~ (7:08) 入渓点 (7:20) ~ (7:38) 最初の10m滝~ (8:00) 倒木のある小滝~ (8:27) 次の10m滝~ (8:56) 傾斜の強い6~7m滝~ (9:24) ホースのある脱渓点 (9:47) ~ (10:01) スキー場 (10:18) ~ (11:25) 前鳥帽子岳登山道駐車場

8/31 丸山沢



3時半起床、ちらほら星も出ていて心配していた天気も何とかなりそうである。中華三昧白湯味にホタテの貝柱とコーンを入れた僕のお得意の朝食を食べていざ出発！！

賽の磧駐車場に車をデポして5時50分出発。「熊出没注意」の看板から遊歩道に入る。やがて、通せんぼしている濁川に降りる踏み跡に入ると、何と刈り払いされていて虚去年より歩きやすい。登山道でもないのに何か刈り払いする理由があるのだろうか？まあ、我々にとっては嬉しい誤算だが・・・。濁川を対岸に渡り、さらに踏み跡を辿れば約1時間5分でカモシカ温泉跡へ・・・。



去年は早めに入渓して藪っぽい沢を歩いて二俣で水量の多い右俣に間違えて入ってしまい時間をロスしたが、今回のルートの方が少し遠回りだが、すっきりしていて歩きやすいように感じた。噴煙上げるカモシカ温泉跡からは踏み跡もなくなるので、ここで丸山沢に入渓。すぐに狭いゴルジュとなり、変化に富んだ遡行が始まる。一見難しそうな小滝を右に左にと快適に越えて行くと、直登不能な大きな滝が現れる。ここは去年同様に右岸巻き。見た目には険しそうで不安になるが、去年も来ていてここは難しくはないことが分かっているので、フリーで各自登って行く。傾斜の緩い岩をルーファイに気を配りながら50m位登ると傾斜が落ちて普通に歩けるようになる（部分的に3級）。懸垂もせずに再び沢床に戻れば岩壁に囲まれた40mの大滝だ。

■写真上左 濁川に下降し始めると、振り子沢の振り子滝が見えてくる！！

■写真上右 かもしか温泉跡、ここから入渓する。

■写真下左 今までの景色が一変！！岩とゴルジュの渓に変貌する。

■写真下右 右岸の岩壁を高巻き途中に見下ろす25m滝！！

見た目は非常に迫力があり、初見で登るにはかなり勇気がいる滝だ。しかし、ここも去年来ているので「去年は右から登ったから、今回は左から登りましょう！！」と特攻隊長のカンちゃんは余裕である。左壁も難しくはないが、緩傾斜部に岩が堆積して、その岩がロープと接触してバンバン岩が落ちてくる。大きな岩も落ちてくるので結構危険である。万が一当たればタダでは済まない。全員無事に登ったが、ここは右壁の方が安全に登ることができる。結局、ロープを使用したのはここだけであった（3級）。



去年は、この段階で時間も押していて、沢の状態も険悪そうなスノーブリッジが懸り、この先どんな苦労が待ち受けているかもわからず、未知の下降と未知の遡行を天秤にかけた末、この少し上で遡行を諦めて右岸の尾根にエスケープして、薮とルーファイに苦労しながら這う這うの体で退却した。

■写真上左 出た！！この渓の主、30m大滝！！

■写真上右 今回は左壁をカンちゃん直登！！写真右上にカンちゃんが登る姿が判るだろうか？

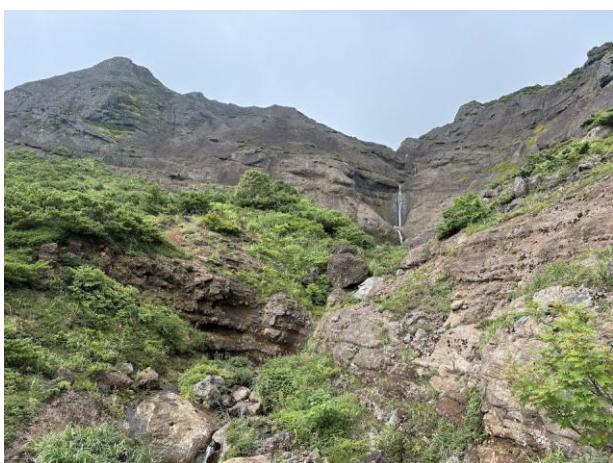
■写真下左 険悪なゴルジュが続くこの渓の技術的な核心部。

■写真下右 さて、どうやって登ろうか？



今年は時間的にも余裕があり、スノーブリッジもないのでもちろん遡行継続である。大滝の上から、2段50m大滝手前までがこの沢の技術的な核心部かもしれない。チョックストーンのある狭いゴルジュの突破は部分的に小難しく、体の硬い僕は足が上がらず、何回かお助けの世話になった。「こんなとこ行けるの？」という感じの狭いゴルジュが続くが、体と頭を使えば何とか突破して行ける。「楽しいね！！」「痛快だね！！」結局、12mチョックストーン滝こそ左岸から巻いたが、それ以外は、ほぼ沢芯を遡行できた。そして視界に現れたのが2段50

m滝！！水量こそ少ないが、その落差と壮大な雰囲気はめったにお目にかかる絶景である！！ここは右岸の緩傾斜に岩場をグイグイ登って行く。意外に岩も硬く安定しているので、息は切れるが快適なクライミングだ（1～2級）。標高差で100mも登れば、この大滝も眼下となり、再び沢芯を行くことができる。



■写真上左 体と頭を使って突破していく。

■写真上右 左岸を巻いた12mチョックストーン滝。右壁にハーケンが打ってあり、直登するパーティーもあるらしい。

■写真下左 見えてきた上部の2段50m大滝！！

■写真下右 凄い景色だ！！

ここまで来れば核心部は終了で、沢は開け、高山植物が咲き誇る源頭の登りとなる。最後の12m滝を右岸から超えると、アオノツガザクラの大群落があって一大感激！！他のメンバーは・・・？ というと、こういうのには興味がないらしくどんどん先に行く。「もったいないなーもう！！」



一もいたけど、これもご愛敬だね。

さらに登ると傾斜も落ちて、薮漕ぎゼロで稜線へ！！反対側には想像以上に大きな蔵王名物のお釜がエメラルドグリーンの水で満たされた火口湖を形成していた。これにはメンバー全員が思わず声を上げる。ガスの濃淡がまた神秘的で見惚れてしまう。

ここからは、登山道に向けのんびり歩いて行くと、今度はコマクサの群落である！！最盛期はすでに過ぎてはいたが、だれもいない瓦礫にひっそりと咲くコマクサは、孤高な感じがまた素晴らしい！！「どれがコマクサですか？」なんていうメンバー

■写真上左 2段50m滝を右岸の岩場から高巻く（1～2級）。

■写真上右 最後に控える城壁のような12m滝が見えてきた。（右岸巻き）

■写真中左 源頭に咲き誇るアオノツガザクラの大群落！！

■写真中右 そして瓦礫に咲く高山植物の女王、コマクサ。

■写真下 蔵王の最高峰で百名山の熊野岳山頂。

やがて、人がたくさん歩いているのが見えると登山道合流。思いの外、順調に遡行でき、13時のバスには時間が余るので、熊野岳（蔵王の最高峰で百名山）を踏みに行く。M本さんはまだ未登頂ということなので、これもまたちょうど良い機会だった。



丸山沢は、見た目は恐ろしそうで「こんなところ登れるの？」という感じだが、ルーファイさえ間違えなければ実に快適に次々に難関を突破できる小気味よい渓谷であった。景観も素晴らしい、何といっても13時までに蔵王山頂レストハウスに着くことができれば、下山はゼロと僕にとっては膝に優しい理想的な沢で、「また訪れてもいいなあー」と思える沢でした。

下山後は、昨日も行つ

た「まほろばの湯」で汗を流し、白石IC近くのとんかつ屋で下山祝い、多少の渋滞もあったがまずまず順調に帰京した。

今回は、ロープを出したのは1力所、お助けも2回くらいであとは皆フリーで登ったので、時間的にも余裕があった。この沢はロープを出す回数で時間も大きく変わるので、2級位の岩場は高度感があってもフリーで安全に登れるメンバーで登ることをお薦めします。

最後に、また宿題を1つ解決することができました。ご一緒いただいたメンバーの皆さん、有難うございました！！

#### ■写真 蔵王名物お釜（火口湖）は想像以上に雄大だ！！

#### ■コースタイム

賽の磧駐車場 (5:50) ~ (6:25) 濁川渡渉点~ (6:55) カモシカ温泉跡 (7:10) ~ (7:46) 25m大滝（右岸巻き）~ (8:00) 30m大滝（左壁直登） (8:45) ~ (9:06) 12mCS滝（左岸巻き）~ (9:23) 2段50m滝 (9:33)（右岸巻き）~ (10:10) 12m滝（右岸巻き）~ (10:45) 登山道~ (10:51) 避難小屋 (11:00) ~ (11:10) 熊野岳 (11:15) ~ (11:49) 蔵王山頂レストハウス